

令和4年度 学校評価書（前期）

伊井小学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	R4	R3	目標	所見（教職員、保護者） ○成果、良好 △課題	改善策・向上策
					結果 (%)	前期 (%)			
確かな学力	1 「引き出す教育」「楽しむ教育」の推進	①主体的な学びの視点に立つ授業改善	子どもたちが授業に主体的に取り組むように努めた。（導入、発問、振り返り等）	教職員	100	100	90	<p>○授業中、児童のつぶやきを拾い授業を展開することができた。</p> <p>○ICTの効果的な活用について、現職教育で教えていただいたのがよかった。</p> <p>○個への指導は常に心掛けるができ、子どものつまづきにいち早く気づき、対応することができた。</p> <p>○eライブラリーの導入で、学習したことをすぐに振り返られたり、持って帰って学習ができるなど効果的に利用することができた。選択問題が中心であるが、良問も多く、短い時間で振り返ることができて良かった。</p> <p>△時間が空いたなどはまずタブレットを使わせてしまい、読書をする時間があまりとれなかった。</p> <p>△ICT活用頑張ります。</p> <p>△自学については、宿題にしなくても進んで取り組んでいくような働きかけをした。</p> <p>△一方的な指示にすることがあり、子どもたち主体となるような授業に取り組んで行きたい。</p> <p>△ICTの効果的な使い方を掴めなかったため、もっとよい使い方がないか追求していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な課題の提示（例：「～のプロになろう」）や物に関心を高める。 ・振り返りで、自己の変容（できるようになったこと）を知り、自尊感情を高める。 ・1時間の流れが分かる板書、色チョークを使う。直線は定規を使う。 ・クラス全体にばかり質問せず、指名、列であてる、大事な内容は挙手させるなど、臨機応変にする。
			授業に主体的に取り組んだ	児童	100	100	90		
			学校は子どもたちが授業に主体的に取り組めるよう工夫している	保護者	97	99	90		
		②学び合い、わかる授業づくり	わかる授業に努めた	教職員	100	100	90		
			個のニーズに応じた指導を常に心がけた	教職員	100	100	90		
			日々の授業がわかった。	児童	98	97	90		
			子どもたちは授業がわかっている。	保護者	90	93	90		
		③ICTの活用	ICTを効果的に活用し、理解が深まる学習、協働的な学習を進めた。	教職員	100	100	100		
			タブレットを使って楽しく学習できた。	児童	100	99	90		
	ICTを活用し、工夫した授業に取り組んでいた。		保護者	90	96	90			
	2 基礎・基本的な学力の定着	④自主学習 「い～い自学」の活用 設定時間の意識化	家庭での学習の指導を継続的に行った。（設定時間、自学のしかた等）	教職員	90	100	80		
			家庭で時間が余った時、自主学習に取り組んだ。	児童	66	78	80		
			子どもたちは自主学習に取り組んでいた。	保護者	76	77	80		
	3 読書習慣の育成	⑤読書に親しむための取組	読書指導に継続的に取り組み、読書習慣の向上を図った。	教職員	90	100	80		
			読書に継続的に取り組むことができた。	児童	76	78	80		
家庭や学校で読書をしている。			保護者	52	55	80			
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの操作能力カリキュラムを活用する。 ・主体的な学習として、調べ学習、単元のまとめ「プレゼンづくり、友達への問題づくりなどがあげられるが、いろいろな使い方を研究していきたい。 ・協働的な学習での活用を考えていきたい。 ・実践したことや効果的だったことなど、互いに情報交換する。 ・現職教育として、タブレット活用研修会を行う。 									
<ul style="list-style-type: none"> ・普段から「い～い自学」の活用を進め、学習設定時間を意識させる。 ・週一など定期的に宿題の中に自主学習を取り入れる。自主学習をする習慣を身に付けさせる。 ・宿題の量を調整することで、自主学習の時間を確保できるように努める。 ・自学に取り組んだことを視覚化する。 ・担任が、学年ごとの家庭学習時間を意識させ、時間が余ったら自学を勧める。 ※「自主学習」という言葉より、「家庭学習」に変更。（来年度より） 									
<ul style="list-style-type: none"> ・読書貯金を活用して、家庭との連携をはかる。 ・学年ごとのおすすめの図書を進んで読むよう指導する。 ・読書貯金をグラフなどを使って視覚的に表し、読書への関心を高める。 ・現状に比べ、児童・保護者の評価が低いため、家庭に発信していく必要がある。例えば、家庭読書に合わせて、読書日記や一口感想を書かせて、保護者に見せる。 ・多読賞を、年間通じて表彰する。 ・朝読書の時間を確保するため、来年度は、目の体操を8：10～にする。 ・家庭読書の日について、担任からその意義について指導する。 									

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	R4	R3	目標	所見(教職員、保護者) ○成果、良好 △課題	改善策・向上策	
					結果 (%)	前期 (%)	指数 (%)			
豊かな心	1 思いやりの心の育成	⑥あいさつの習慣化推進	児童に対して自分から進んで誰にでもあいさつするように指導を行った。	教職員	100	100	90	○児童の特性に合わせた声掛けをすることができた。 ○毎朝、健康観察で、家庭、地域、学校で自分から挨拶をしたか確認して指導した。 ○少しずつ、縦割り班での活動もできるようになってきてよかった。 ○挨拶などの日常的なことには特に意識して指導することができ、廊下を走らないことなど、子ども同士で注意し合う様子も見られた。 ○以前よりアイコンタクトをして挨拶する子が増えている。 ○子ども達は素直に先生方を信じ、学校生活を楽しく学びたいと思っています。どうぞこれからも愛する教育を宜しくお願い致します。 △特支の道徳はSSTのように難しい。 △子どもが泣いていた時や、喧嘩した時に適切な言葉掛けが出来ているか不安。 △やや低学年は挨拶できない子もいるので、高学年ご見本を見せてほしい。 また、見守り隊など、地域の方々にも進んで挨拶するとさらによい。 △本心はわからないが、毎日のように行きたくないと言うので、どう対応するべきか分からない(お休みするかと聞くも嫌だと言う)	・毎朝の健康観察の時に「朝、自分から家族、地域の人、先生、友達に挨拶ができたか」を聞き、健康観察ノートにチェックをする。 ・生活・体育委員会で、朝の挨拶運動を継続して行ったり、あいさつカードを作成して意欲的に挨拶するよう取り組んだりする。 ※保護者の観点の文言を、『子どもたちは、家庭で自分から「おはよう」いただきます』『おやすみなさい』などのあいさつをしていた』に変更(来年度より)	
			学校や家庭・地域で「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」等のあいさつを自分から行った。	児童	98	100	80			
			子どもたちは、家庭で自分から「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」等のあいさつをしていた。	保護者	79	79	80			
		⑦規則を尊重する態度の育成	時間を守って行動し、廊下や階段を走らないように指導した。	教職員	100	100	90			・廊下を走っている児童を見かけたら「やり直し」と声をかける。 ・休み時間はトイレを済ませ、次の学習の準備をするよう習慣づける。 ・全校集会で、きまりを守ることを、特に「廊下を走らない」ことについて継続して指導する。
			時間を守って行動し、廊下を走らないように気をつけた。	児童	95	90	90			
		⑧思いやりの心	相手に思いやり親切にする指導を継続して行った	教職員	100	100	90			・今後もSST(ソーシャルスキルトレーニング)を、月に1回程度継続的に行う。 ・道徳の時間、思いやりや親切について、道徳的心情が深まるよう指導を工夫する。 ※保護者の評価の観点の言葉『子どもたちは相手を思いやり、親切にしている』が分かりづらいので、『相手を思いやり、優しい言葉を使っている』などに変えるとうい。(来年度より)
				相手に思いやり親切にしている	児童	98	98			
			子どもたちは相手を思いやり、親切にしている	保護者	86	89	90			
		2 いじめ不登校の防止	⑨楽しい学校生活	学校生活が楽しくなるよう努めている	教職員	100	100			90
	学校に来るのが楽しい			児童	94	99	90			
	子どもたちは学校へ行くのが楽しいと思っている			保護者	90	99	90			
	⑩児童理解		児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100	・学年だりに、「ハートふれあい週間」を必ず記載する。(引き続き) ・引き続き、教員全体で情報共有を行う。 ・自己肯定感を高められる言葉かけを行う。 ・児童と面談を行い、個別の関わりを増やす。 ※児童の目標値を100→90~95に変更する。(来年度より)		
			自尊感情を高める指導に努めた。	教職員	100	100	90			
			学校の先生は、自分の話を聞いてくれる。	児童	94	100	100			
	3 道徳教育の充実を人権意識の向上	⑪道徳科の授業向上	学校では、子どもの相談に応じたり、「ハートふれあい週間」による面談等で、児童理解に努めている。	保護者	93	99	90			
児童が意欲的に考え、話し合える授業づくりに努めた。			教職員	100	—	90				
		道徳の授業で、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして、考えを深めた。	児童	100	—	90				

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	R4 結果 (%)	R3 前期 (%)	目標 指数 (%)	所見(教職員、保護者) ○成果、良好 △課題	改善策・向上策
健やかな体	1 望ましい生活習慣の育成	⑫早寝・早起き・朝ごはんの指導	早寝・早起き・朝ごはんの指導を継続して行う	教職員	100	100	90	<p>○日々の声かけを心がけている。 ○毎朝、健康観察で、早寝、朝ごはんについて確かめ、指導した。 ○記録がのびたりすると、すごく嬉しそうで、1人が応援し始めると周りも応援する姿が見られた。 ○自学級で、朝ごはんを食べたかの確認などすると全員食べていることや、沢山食べてることが伝わった。</p> <p>△読書を奨励する取り組みを行うことが、できなかった。 △自分の防犯や交通安全に対する知識が足りないので、深めていきたい。 △子ども自身が換気や密を避けることについてもっと意識してほしい。今後大きな行事が続くので、油断しないよう指導する必要がある。 △◎スマートルールについて、保護者にも周知し、しっかり意識してもらえるとありがたい。一部の児童が、平日、休日問わず、ネットゲームに夢中になっており、問題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝」については、学校で指導しても改善されることが少ないため、家庭との連携を図る必要がある。 ・なぜ規則正しい生活が大切なのか児童に継続的に指導していく。
			早寝・早起き・朝ごはんを毎日取り組む	児童	98	99	80		
			子どもたちは早寝・早起き・朝ごはんを毎日取り組んでいる	保護者	98	96	80		
		⑬ゲーム、インターネット利用時のルール	スマートルールや家庭読書の日をもとに指導している。	教職員	90	100	80		
			ゲーム、インターネットはルールを守って、見たり使ったりしている。	児童	91	93	80		
			家庭のルールをつくり、守るよう取り組んでいる。	保護者	83	84	80		
	2 主体的に取り組む運動習慣の育成	⑭主体的に取り組む運動習慣の育成	授業や業間体育で記録が伸びるよう励ましながら指導した。	教職員	100	100	90	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートルール、県からの資料をただ配布せず、その都度指導していくことの徹底を図る。 ・アンケート結果を保護者に伝え、家庭での改善策を考えてもらう。 ・今年度もひまわり教室を開く。(中・高学年) ・スマートルールや家庭のルールを明確にする。 	
			授業や業間体育で記録が伸びるよう努めた。	児童	95	-	90		
			学校は、子どもたちがめあてをもつて体力向上に取り組めるよう努めている。	保護者	93	91	90		
	3 安全教育の推進	⑮危機意識・判断力の向上	日頃より、感染症防止や交通安全など安全教育を行っている	教職員	100	-	90	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の体育の授業から長距離走やシャトルランなど持久力を高める運動を多く取り入れる。 	
感染症防止や交通安全などに気をつけている。			児童	95	-	90			
信頼される学校	1 ふるさと学習、地域教育力の活用推進	⑯伊井っ子SDGsの推進	SDGsに関する学習や活動を積極的に進めた。	教職員	100	100	90	<p>○植物栽培の畝や棚を作ってくださり本当に有り難かったです。 ○地域の方が協力的なこともあり、地域の人材をととても活用している。 ○ホームページが充実している。 ○子どももSDGsについて自分なりに理解しており、子どもたちの口から自然とSDGsという言葉がでてきている。 ○お便りや連絡帳を通して、子どもの様子を伝えるように努めている。伝えた際に、学校での様子がわかって嬉しいとおっしゃっていた。 ○コロナ禍ながら、感染対策をしつつ地域との活動を進めることができた。 ○学級や行事等で、SDGsを取り入れた学習や活動ができていた。さらにSDGsのめあてを時々確認させ、自己を振り返ることができるとよい。 ○地域の方が学校の活動に協力的で大変ありがたい。 ○総合の時間で環境新聞を作る際にSDGsについても調べ学習を行った。</p> <p>△学校の様子などは、もう少し知りたい。写真購入など出来るといいな、と思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年でSDGsについて発達段階に合った指導をし、自分にできることを考え、実践することを継続する。(めあてを学校や家庭で掲示する) ・各教科、総合的な学習や生活科で「伊井っ子SDGs」と関連させる。 ・環境委員会を中心に全校にSDGsを呼びかけ、意識を高める。
			自分ができることを選んで取り組んだ。	児童	100	99	90		
			子どもたちは、自分ができることを選んで取り組んでいた。	保護者	91	89	90		
	2 地域への情報発信	⑰地域との連携	地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	教職員	100	100	90		
			地域の行事に参加したり、地域の人とふれあったりすることは楽しい。	児童	100	100	90		
			学校は、地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	保護者	90	89	90		
	⑱学習や生活の様子を伝えるための工夫	お便りやホームページなどを通して学習や生活の様子を伝えている。	教職員	100	100	90			
		お便りやホームページなどを通して子どもたちの学習や生活の様子がわかる。	保護者	97	95	90			